

門信徒の皆様へ

和上 発

新型細菌の蔓延によって不要不急の用事なきは、人の集会へは極力避ける通達にて私達の活動も御命日、讃嘆会場さえも暫く控えさせていただく事になりました。

異常なことから戸惑うことも数多いのですが、この世界的な災難が早く終息することを願うばかりです。

このような時こそ私達の平生業成の心得がより強く試されるものですから、わづかですが激励文を贈るところです。

元祖の末燈鈔一節には平生に本願の助け下さる謂れ（聞其名号のみ）にて私達の心得を示され、

- (1) 平生業成の儀で臨終や来迎の儀式を待ためこと
- (2) 来迎にて眞実信心の定まる時、往生は定まること
- (3) 正定聚にて信心定まった人は摂取不捨の制約で浄土の国民としての資格を持った正定不退の聚（アツマリ）

ばかりであること、の三点が強調され眞宗信者の憶念の特長を教えられました。

平生業成とは私達日常の凡夫生活はそのままに何の反省や批判なく反って愛着強く、これに対する者には憎悪の念を燃やして敵対する激しい怒りの世界に安堵する中に、聞其名号の誓を掲げて生死の苦海に沈む我等を無条件で救い出し、即時に天涯孤独の我等を摂め取り、智的迷執（妄理を正理と思うこと）や情的迷執（邪師や邪教を正当と思うこと）の九十五種邪道から守って、貧しい自我を養い育て下さるのですから、聞其名号の四字は智恵のありったけ、慈悲の極まった弥陀如来の誓いで、この誓約が我ら釈迦善知識の人格を通り

て智恵の喚びとして自我の魂の宮殿に轟ろきわたる佛の不思議力であつたのです。

この弥陀の誓約に信淳された聖人の歸命の一心は、凡夫無条件救済の大難事業を完遂する為に如来の廻向を増上縁とされて全くの一つとなり、私達凡夫に向かわれた時に、その御意志は願生心と転じられて大理想を實踐する実践理性意志となつて貧しい我らが美しい仏としての人格を得る迄、親心として子供を養育する如く働き続ける姿を成就文では「信心歡喜」と明かされました。

この訳で御文には我ら信心の体は聞其名号等八字であることを強調されたのであります。

親心に就きましては「三無為」の別名があります。

(一) 虚空無為 (二) 非擇滅無為 (三) 擇滅無為 と云います。本典信卷に論註の文を引かれて「如来は是れ実相身なり、是れ為物身なり」と教えて、

「実相身」とは光明の報仏(浄土にまします弥陀如来)で攝取不捨力を云い、小経和讃に「攝取シテステザレバ弥陀トナヅケタテマツル」と申されたのがそれです。この攝取不捨力が虚空無為の親心です。

「為物身」とは我ら凡夫の為に使つて貰いたい親心のごとで六字名号を指します。

一念多念証文に天親論主の文を引かれて「もしひと、ひとへに彼の国の清浄安楽なることをききて、剋念して生まれんと願う人と、またすでに往生をえたる人も、すなわち正定聚にいるなり。これはこれ彼の国の名字をきくに、定めて佛事をなす。いづくんぞ思議すべきや。とのたまえるなり」と訓読みをされました。国の名字とは六字名号のごとで親心と申した善知識の心業の一心は安楽の国民で、私達有情は安楽の国民より説法を受けるより他なきことを明かされた証文なのです。六字名号の法が善知識の機に写されて名声と転じ、善知識の実語となつたのです。

この善知識の心業の一心（先驗的叡智（經驗に先立つ））の働きを非擇滅無為と云い、六字名号活動にて聖人の歸命の一心が我らの宿善機に写された時、歸命の一念と受け取った時から、この歸命の心は憶念と立場が変わって御相続が始まるのですが、この憶念もまた親心によって起こされ続け、無為を理解するところに働く智恵ですから、この立場を擇滅無為と明かされました。

先住聖人の詠歌をそえますから善く味はって御相続のエネルギーとして下さい。

1, 擇滅無為 手強しと思えば強し親心（御恩尊とや、有難やと喜ぶ憶念相）

2, 非擇滅無為 思はせて思わせたまふ親心

3, 虚空無為 忘れても忘れさせぬが親心（実相身は虚空の如し。全てを包めり。善悪業ありとも離れず。

虚空を知らずとも虚空あり。実践理性者の智恵なれば先手の親心なり）

蓮如宗主のイロハ歌には

①自ずから口に浮かぶも②たしなむも③我が機そへねば皆他力なり。

以上